

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立 貴志川高等学校	松下 重喜
学校所在地		
〒 640 - 0415 紀の川市貴志川町長原 4 0 0 tel 0736 ( 64 ) 2500 fax 0736 ( 64 ) 2501		
担当者名	役職名・担当教科	
清水 昭好	教諭・理科	
<p><b>〔学校の概要〕</b></p> <p>本校は、昭和 2 3 年に発足した和歌山県立那賀高等学校貴志分校を前身として、昭和 3 5 年に和歌山県立貴和高等学校（定時制）として、鳩羽山を望む「生涯学習の町」に設立されました。昭和 3 8 年には全日制女子高等学校として再スタートを切り、昭和 5 8 年には校名を和歌山県立貴志川高等学校（全日制普通科）と変更しました。</p> <p>平成 1 1 年には、学科改編を行い、人間科学科を新設し、現在に至るまで多くの卒業生を輩出してきました。「以和為貴」を校訓に掲げ、「人間として生き抜く力を身につけた、地域と社会に有為な人材を育成する。」ことを目標に、一人一人を大切に教育を実践しながら、生徒・教職員・地域が一丸となった教育活動に取り組んでいます。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 1 年生 29 名	9 名 職員 5 名	一の橋～弘法大師御廟 転軸山
実践研究テーマ		
世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について理解を深める		
実践教科等名	単元名	
学校設定科目「ヒューマンライフ」	世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の歴史・文化について学ぼう	
〔キーワード〕		
〔単元目標〕		
世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の歴史や文化を学び、現地での体験的な学習を通して、国の歴史や文化を尊重する態度や自然環境を保全する素養を身につけるとともに、故郷「和歌山」についての理解を深める。		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕		
全体	5 時間 （「世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の歴史・文化について学ぼう」	5 時間 ）
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕		
和歌山県世界遺産センター … 次世代育成事業 和歌山県世界遺産マスター … 次世代育成事業（現地学習）		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	1. 事前学習（本校）	世界遺産センターのホームページ等を活用し、読み合わせや和歌山県の世界遺産についての事前学習を行う。	ワークシート
2	2. 現地学習 （一の橋～弘法大師御廟）	世界遺産マスターのガイドのもと一の橋から弘法大師御廟までを歩きながら、高野山の歴史や文化について学ぶ。	観察
3	3. 世界遺産講座	世界遺産センター職員の方に講義して頂き、「世界遺産が生まれたきっかけ」「紀伊山地の霊場と参詣道の歴史的・文化的な価値」「世界遺産を保全する活動の重要性」等を学ぶ。	観察
4	4. 道普請	転軸山にて、参詣道の維持・修繕活動に参加することで、「資産の保存と次世代への継承」について学ぶ。	観察
5	5. 振り返り	「世界遺産講座」「現地研修」「道普請」の振り返りを行い、世界遺産としての「紀伊山地の霊場と参詣道」の意義や保全活動の重要性、自然環境の保護についての理解を深める。	ワークシート
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>今回の活動を通して、生徒たちの高野山や世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について興味関心が高まった。また、遺産としての紀伊山地や世界遺産を大切に守り、次世代に引き継いでいくための保全活動の重要性を理解した。</p> <p>今年度は、道普請に参加したが、高野山や世界遺産の価値、保全活動の重要性等を学んだ後に参加することで、世界遺産の保全に貢献する充実感を得るとともに維持活動の重要性への理解もさらに深まっていた。同時に、故郷「和歌山」の良さや自然の豊かさも再発見した。</p> <p>振り返りでは、持続可能な開発目標（SDGs）の概念にも触れながら、自分たちに何ができるのかを考えることで、生態系や自然環境の保護、環境問題にまで関心を深めることができた。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>(1) 世界遺産センターの職員の方から世界遺産の概要を学び、また世界遺産マスターのガイドのもと現地学習を受けることで、世界遺産の価値について深く考える機会となった。</p> <p>(2) 世界遺産の歴史や文化、保全する重要性への理解が深まるだけでなく、他国の歴史や文化を尊重する態度を養うとともに、故郷である「和歌山」についての興味関心が高まった。</p> <p>(3) 道普請活動に自らが参加することで、保全活動の重要性についての理解が深まった。</p> <p>(4) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」で学習したことをもとに、自然環境の保護などに関心を持ち、課題設定ができた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>世界遺産講座や現地ウォークなどの学習に加えて、道普請や清掃活動といった世界遺産を次世代に良好な状態で継承するための保全活動に生徒が参加したことで、世界遺産の意義や保全の大切さを知識と体験から学ぶことができた。</p> <p>また、世界遺産学習を通してSDGsの概念に触れ、自然環境との関わり方について考える機会を設けたが、今後は、自然環境の保全や環境問題等の学習を通して、地球の未来に目を向ける機会をさらに増やしていきたい。</p>			

## 様式 2

令和3年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

### 【生徒の感想より】

現地学習では、高野山のガイドをしてくれる世界遺産マスターのお話がとても楽しかったです。

今までふわっとしか知らなかった高野山について、歴史や文化、意味や理由など、一つ一つ丁寧に解説してくださったので、わかりやすかったです。そして、自然が豊かで、見上げると大きな木がたくさんあり、思わず眺めてしまうほどすごかったです！！また、個人的に高野山に行ってみたい！！と心から思いました。

現地学習では、絶対に難しい話ばかりだと思っていました。でも、世界遺産マスターの方が、歩きながら、わかりやすく教えてくださったおかげで、ずっと楽しく勉強ができました。初めて知ったことがほとんどで、勉強になりました。世界遺産を守るためには、私たち中高生も、こういう活動にちょっとでも関われば、世界遺産を守ることができると思いました。

世界遺産学習を終えて、世界遺産を守っていく大切さを知りました。世界遺産の中でも危機にさらされている世界遺産があることを学びました。この危機にさらされている世界遺産を守っていくのは私たち、今の世代が次の世代、次の世代がその次の世代へと受け継いでいく必要があるとわかりました。道普請に参加して、世界遺産をずっと美しく保っていくのはとても大変なことで、たくさんの人と協力していく大切さと必要性を感じました。自分一人の力ではできないことを、たくさんの人たちと協力して、皆で守っていくのが私たちの課題ではないかと思いました。これから、世界遺産を守っていく地域貢献活動に、自分から積極的に関わっていこうと思いました。今回で、世界遺産について、自分が知らなかったことを、たくさんこの機会に知れて、よかったと思いました。この知識を生かせるように考えていかなければならないと思いました。

高野山は、本当に綺麗で、学ぶことも沢山ありました。現地に行かなければわからないことも沢山あって、今まで私は高野山に行ったことがなかったので、勿体ないことをしてきました。私以外にも、高野山に行ったことがない人が沢山いると思います。一回でもいいから、高野山に来てみるという機会をつくるのが大事だと思いました。若い世代の人たちが、もっとフラットにというか、気軽に考えて、少しでも行きやすいようにできることはないかなと考えました。

